

平成 20 年度再評価対象事業一覧表 (再評価実施後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)
 (対象：平成 15 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)	
	再評価 時点 H15	有田川総合開発事業 (有田川水系 白川・猿川) 事業主体：県 事業地：有田町	ダム地点下流の洪水被害の軽減を図り、流水の正常な機能の維持、既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量を確保する。また、水道用水として有田町に対し、日量 1,800m ³ の取水を猿川ダムの新設により可能にする。	全体事業費： 9.9 億円 総貯水容量： 1,170千m ³ (猿川ダム) 1,880千m ³ (有田ダム) 工期：H4～	実施計画調査中 平成15年末進捗 6.0% (事業費ベース)	H2年7月洪水：浸水家屋55戸 H6湯水： 178日の自主断水 78日間の夜間断水 (旧西有田町上水道、 給水人口0.94万人) 有田町と西有田町の合併の具体化を受け、長期的な水需要については、“新”町の将来のビジョンを見据えた検討結果を待つ必要がある。	(B/C) 1.03	(代替案の可能性) 河川改修案： ダム計画に比べ不経済であり、且つ、用地補償の面で課題が多い。	事業評価実施後5年経過	継続 具申意見： 今後1年で地元と調整を図り、新規利水の必要性を見極める。	
	現時点 H20		ダム地点下流の洪水被害の軽減を図り、流水の正常な機能の維持、既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量を確保する。また、水道用水として有田町に対し、日量 1,800m ³ の取水を猿川ダムの新設により可能にする。	全体事業費： 9.4 億円 (参考値) 総貯水容量： 1,170千m ³ (猿川ダム) 1,880千m ³ (有田ダム) 工期：H4～	実施計画調査中 平成19年末進捗 6.5% (事業費ベース)	H18年3月： “新”有田町スタート (有田町・西有田町) H19年9月 総合計画 基本計画策定 水開発に関する内容： 「下水道整備・企業誘致・宅地開発など、今後の水需要の増大に考慮した水源の確保に努める。」 有田町の財政状況： 平成18年度財政経常比率 県内最下位 有田川下流の伊万里市の状況 工場進出が決定し、急遽当面对応の日量2万5千t ³ の工業用水開発 補助金施設の転用・譲渡規制緩和の動き	(B/C) 1.0 (参考値)	同上	事業評価実施後5年経過	継続	
	理由等				降雨、河川流量調査および環境調査を実施した事による増加	有田町の総合計画基本計画では、今後の水需要の増大に考慮した水源の確保に努めるとなっているが、反面、町の財政状況は厳しい。					利水用水の開発について伊万里市、有田町の今後の企業誘致状況を見守りながら最新の社会情勢や最新の気象資料をもとにダムの新設(猿川ダム)の他、既設ダムの有効運用等の可能性を検討していきたい。